



ともに感じ、ともに学ぶ

― 姉妹都市高校生ホームステイ事業 ―

ふれあつたすべマの時間が宝物

昭和63年から始まった蕪崎市と姉妹都市を結ぶアメリカ合衆国カリフォルニア州フェアフィールド市との相互交流事業。本年も7月7日から27日の期間に6名の高校生と引率者が本市を訪れ、市内のホストファミリー宅に滞在しながら、陶芸や市内の味噌蔵の見学、本市中・高校生との交流のほか、京都・奈良・広島での研修旅行等を行いました。フェアフィールド市の高校生にとって初めての異国でのホームステイとあって、言葉の違い、文化風習の違いなど、とまどいもあったと思いますが、ホストファミリーの心あたたまるおもてなしに、しだいに蕪崎での生活習慣にも慣れてきた様子でした。また、受け入れる側のホストファミリーの皆さんにとっても緊張の連続だったと思いますが、最終日には涙無しではいられない別れとなりました。ともに感じ、ともに学びあつた時間のすべてが、この事業に関わった皆さんにとってかけがえない宝物になったことでしょう。



後列右から2番目：トビー・バティスタさん
 後列右から3番目：ヴィンセント・ロサリオさん
 後列右から4番目：ジョシュア・パービスさん
 後列右から5番目：レイチェル・サイレットさん

**蕪崎を訪れた皆さんに
 感想を伺いました**

トビー・バティスタさん

学校訪問や日本の食べ物を食べたこと、市内研修など、充実した時間を過ごせました。蕪崎市はとてもきれいな場所です、いつかまた戻ってきたいと思っています。

ジェンセン・キャッチキさん

様々な活動によって文化の違いや、また似ているところなどを学びながら多くの思い出や友達を作ることが出来たと思います。



7月23日、井筒屋醤油さんを見学

ツリエスト・リンダルさん

ホストファミリーが、いつも私を歓迎してくれていたのので、楽しい時間を共に過ごすことができ、良い家庭に受け入れてもらって幸せでした。

ヴィンセント・ロサリオさん

ホストファミリーは私にとって第2の家族です。私のためにホストファミリーがしてくれた、すべてのことに感謝しています。

**ホームステイを通じて、
お互いの文化を
知ることができました！**



毎日英語で話すので英語を話す自信が湧きました。しかし聞き取れない場合が度々あり、苦勞することがありました。受け

入れを通して相手の文化を知ることができて良かったです。これらの経験を生かして将来は英語力を高めて日本とアメリカを繋ぐ仕事をしたいです。

☆今回、トビー・バティスタさんの受け入れにご協力をいただいた宇野大智さん（高校2年）宇野さん自身も3年前にフェアフィールド市へのホームステイを経験。また、弟の海杜（かいと）さんも、昨年度のフェアフィールド市への派遣事業に参加されました。



7月26日、フェアウェルパーティー（穴山ふれあいホール）

後列左から2番目：ツリエスト・リンダさん
後列左から3番目：ステファニー・ビアツリーさん
後列左から6番目：ジェンセン・キャチッキさん
その他：ホストファミリーの学生のみなさん

ステファニー・ビアツリーさん（引率者）
この事業は、一人ひとりを豊かにしてくれる体験ができるものであり、よく計画されていると思います。異文化間交流をもたらす、大切な事業だと思えます。

レイチエル・サイレットさん
異なる生活習慣を体験したことや新しい場所を見たことがとてもおもしろく、たくさん学ぶことが出来ました。また、葎崎の景色やここに住む方々が親切なところがすごく好きです。



7月9日、葎崎工業高校太鼓部訪問

ジョシユア・パービスさん
葎崎市はとてもきれいで、快適な街でした。ホストファミリーはとても親切で、フレンドリーな人たちで、楽しいひとときを過ごせました。

**今度はきみの番だ！
フェアフィールド市へ
行こう！**

姉妹都市フェアフィールド市との交流を深めるとともに、一般家庭へのホームステイを通じて様々な人と接することにより、国際的な感覚を持つた人材を育成するため、市内在住の中・高校生を対象に、フェアフィールド市への派遣学生を募集します。

ホームステイ期間

12月19日（土）

～平成28年1月10日（日）

《23日間※変更の場合あり》

募集人員

中・高校生6名《予定》

募集期間

9月1日（火）～15日（火）

※後日、面接試験を行い、派遣者を決定します。

参加者負担金

15万円程度（過去実績）

申し込み・問い合わせ

国際交流実行委員会

（企画財政課企画推進担当内）

（内線356）